令和７(2025)年10月27日

葛城市立新庄北小学校
トベラの木
学校だより　No.４
校長　中川　純一

１０月７日
平和の語り部のお話を語り継ごう

１０月７日(火)に、一般財団法人奈良県遺族会顧問で大和高田市遺族会顧問の松田善吾さん(８８歳)が来校され、貴重な戦争体験をお話してくださいました。

私の父は、８０年前、中国の奥地で、敵と戦わないまま終戦を迎え、食べる物もなく、最悪の環境の中、病気で亡くなりました。戦わずして病死で戦死、別の言い方をすれば戦病死と言います。

今年は戦争が終わってから８０年になりますので、戦争が終わった当時、私は満８歳の誕生日直前の７歳で２年生でした。

私の戦争体験と記憶は、私が小学校(当時は国民学校と言いました)に入学する直前の昭和１９年２月８日に父に召集令状(赤紙)が来て、４日後の１２日に大阪市の東区の汎愛中学校にあった中部第２３部隊に入隊したことから始まります。

その時期は、姉が３年生、妹は満３歳、私は６歳で国民学校(現在の小学校)へ入学直前でしたので、私が母に連れられ２人で、ほぼ毎日、近鉄電車に乗り、上六から市電に乗り換えて堺筋の本町まで行き、汎愛中学校の校門前で、訓練のため出て行く兵隊さんの隊列の中に、お父さんを見つけて手を振り、訓練が終わって帰ってきた隊列にお父さんを見つけて手を振るだけの繰り返しでした。

一度だけ、短い時間の面会が許されたときがありましたが、頭が丸刈りになっていたのと痩せていたため、あまりなじめず恥ずかしそうにしていた記憶があります。

入隊から２０日後の３月３０日、父の部隊が大阪を出発することになり、母と３年生の姉と私と父の兄さんであった伯父さんが見送りに行きました。それがお父さんとの最後の別れとなりました。

私にとって強く残っているお父さんとの思い出は、召集令状(赤紙)が来た日の事と、父が大阪を出発した日の事ぐらいです。お父さんは貿易関係の検査所に通勤していたため、朝は早くから家を出て、帰ってくるのは夜遅く、家で遊んでもらった記憶はほとんどありません。

奈良県では集中的な爆撃はありませんでしたが、夜、大阪の街が爆撃を受け、二上山の向こうが真っ赤になることもありました。新庄周辺が攻撃されたという話は聞いていませんが、高田では大日本紡績の工場が爆撃され、大火災が起こりました。また、もう１カ所の製鉄工場が爆撃を受けたと聞きました。また、水道局にあった大きな鉄製のタンクが銃撃され穴が開き、終戦後、長い間、溶接をして穴をふさぎ、使用をされていたことも私の記憶に残っています。

私が１年生の夏のことです。特に、東京や大阪、名古屋など、多くの大都市が大爆撃を

受けました。そんな都市部の子どもたちが親元を離れ、田舎のお寺や集会所等に集団疎開で来ていました。私の地元でも、私の通っていた土庫国民学校にも大阪東成区の児童３２名が親元を離れて集団で、近くのお寺(土庫弥勒寺)に疎開して来ていました。
　当たり前の平和がどれほど大切なものなかのか、私のように当時のことを知り、戦争で父を亡くした者が、当時の状況をお話し、戦争がどれだけ多くの人に不幸と悲しみを与えるものか、ということを知っていただきたいと思います。

　映画『鐘の鳴る丘』の一部を放映↓
https://www.bing.com/videos/riverview/relatedvideo?q=%e6%98%a0%e7%94%bb+%e9%90%98%e3%81%ae%e9%b3%b4%e3%82%8b%e4%b8%98&&mid=13CB62F666FE92A485A013CB62F666FE92A485A0&FORM=VAMGZC

　奈良県でも戦争が終わって間もなく、私財を投じて上牧町に戦争孤児たちを受け入れるための施設「チルドレンハウス」を作り、勉強のできる子どもには高校、大学までも進学させた方がおられました。上牧町の町長になり、後に衆議院議員となり、郵政大臣にもなられた服部安司さんです。
　昭和２８年４月、私は同じ高田にある奈良県立高田高校に入学いたしました。当時は学区制で、普通科については基本的には北葛城郡に居住している者は、高田高校を受験するシステムでした。そんな中、チルドレンハウスから通学していた生徒が何人も居たことを記憶しています。
　今、みてもらったのは映画「鐘の鳴る丘」の最初の部分ですが、戦争が終わった頃、東京や大阪など、都市部に住んでいて空襲を受けた人たちの中には、家を焼かれ、家族とも死に別れてひとりぼっちになった子どもたち(戦災孤児)がたくさんいたのです。今、自分がそんな環境の中におかれた場合を想像してみてください。
　私は父を戦争で亡くし、直後に祖父も亡くなり、女ばかりの家族の中で育ってきましたが、当時の戦災孤児のことを思うと、私の苦労など比較になりません。
　世界を見れば、この８０年間、戦争や紛争がなかった時期はありません。現在も、ロシアとウクライナ、イスラエルとパレスチナ紛争など、どこかで武器による殺し合いが続いています。
　戦争のない平和なこの国に生まれた育ったみなさんは幸せ者です。
　当時の戦争を体験した一人としてこれあらも平和なくらしが続きますよう、みなさんの未来が平和であることを願っています。

「松田善吾さんの話」を聞いて・・・

　戦後８０年。戦争の体験をした方が年々減少している中で、６年生の子どもたちは本当に貴重なお話をいただいた。松田さんは上記のお話だけでなく、戦地からのお父さんの手紙も読まれた。子どもたちに紹介するとき、涙ぐんで話をされていた。戦地に行き、戦病死で亡くなられたお父さんのことは、本当に悲しいことだったと感じ、子どもたちも最初から最後まで真剣に話を聞いていた。私だけでなく子どもたちの心の中にも突き刺さったお話だった。